



もう一人の自分？

校長 平田 和利

昨年 10 月、芸術鑑賞教室で、「絵にかいてみよう 能の世界」ということで、本校体育館において能「ぬえ」と狂言「かきやまぶし」の能楽公演が行われました。



これは、一流の文化芸術団体が、中学校において公演を行い、子どもたちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子どもたちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成などにつなげる目的として実施されました。



さて、「能」は、今から 950 年くらい前に、「世阿弥」という人によって現在の「能」の形に完成されたと言われています。その「世阿弥」の言葉に「舞台上で踊っている自分の他に、舞台上で踊っている自分を観客席で見るもう一人の自分がある。それは、自分の肉体を離れたもう一人の自分である。そういう「2人の自分」をもって能は完成する」と言っています。これは、能の世界だけでなく、日常生活でも人は自分の深い思いをもつこと（主観性）と、それを冷静に見つめること（客観性）の両方をもつことが大切であり、その二つがそろって初めて自分自身の心や行動をコントロールできるということを言っているのだと思います。

また、「もう一人の自分を見つけることは、努力しないとできないことだ」とも言っています。この「もう一人の自分」を見つけようとするところこそがこれから皆さんが大人に成長しようとするところだと思えます。

人は誰でも、辛いことから逃げ、ふと楽な方に、楽しい方に、ときには、自分の都合の良いように捉え誰かが傷つくかもしれないことを考えないで、

判断したり、振舞ったりしがちです。そんなとき、しっかりと考え、勇気をもって判断し行動すること、つまり、もう一人の自分を見つけて自分をしっかりとコントロールすることが大切になります。

中学時代の 3 年間は、多くの仲間とともに、様々な行事や勉強、部活動、遊びなどを通して、「自分がどうしたいのか」、「相手がどうしてほしいのか」などを考える訓練や努力をする時期です。

例えば、周りが見えずによく自分勝手な言動や行動をしてしまう人やどうしたらよいかいつも判断に迷っている人などは「もう一人の自分」を見つけることで、自分に対して冷静で客観的な視点（考え）がもてるようになり、いつでも自分の立場を判断できるようになります。その中で自分のやるべきことが自然と浮かんで、冷静な行動ができるようになった時、大きな成長に繋がります。

「もう一人の自分を見つける」ということを通して、このもう一人の自分が重要なアドバイスをしてくれると思います。これから皆さんが学校生活を送る上でのヒントにしてほしいと思います。

第 1 回学校評議員会開催

6 月 3 日（木）に令和 3 年度第 1 回学校評議員会を開催しました。当日は 6 名の委員の出席を賜り、年度当初における学校経営概要説明を聞いたり、授業参観等をしていただきました。協議や質疑・応答の中で、授業での先生方の丁寧な様子、子どもたちの真摯な態度、知性だけでなく、人として「生きる力」はこれからの世代に最も大切であること。教室の設営が創意工夫されている点などを評価していただきました。



また、人権尊重の精神を学ぶ中で、いじめや差別のない指導や新型コロナウイルス対策を踏まえながら、様々な工夫により少しでも思い出の残る教育活動を期待したいという意見等が出されました。

家庭教育学級開講式

5月14日(金)、第1回家庭教育学級が開催されました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催が遅れましたが、今年度は安全面に配慮しながら5月からの開催になりました。

当日は、伊敷公民館の春田浩志館長(前伊敷台小学校長)が出席され、家庭教育学級開講式にあたっての貴重なお話をされました。



特に、子どもに自分で決めさせる(自己決定)機会を、大人が意識して作っていくことが自己決定のできる人間へと成長していくことにつながることを述べられました。

また、家庭教育学級生として、「子育てのやり方に答えはない。」と言っても過言ではなく、「子育ては一生続く。」ということ、親になったことに感謝し、子どものために、そして自分自身のためにも、楽しく、前向きに学ぶことが大切であることなど、親としての在り方を考えさせられる大変よい機会になりました。

家庭教育学級で学ぶ親の姿、行動は必ず子どもに還元されると思います。なぜなら、子どもは親の姿をみているからです。思春期の子どもの親として、悩むことは当たり前です。そんなとき、同年代の子どもをもつ親として、同じ悩みを共有できるほっとする時間になればと願います。

父親セミナー開講式

5月29日(土)、第1回父親セミナーが開催されました。

開講式では、町教諭による人権同和教育に関する講話や自己紹介、役員選出がありました。



ハンセン病元患者等の人権や外国人の人権、特定の人・地域・職業などに対して「危険」「ばい菌」といったレッテルを貼る心理によって差別や偏見が起こることなどが紹介されました。

教育の原点は、家庭教育であり、親子の心の絆で

す。これから、奉仕作業や門松づくり、進路指導と父親の役割、生徒指導などについて学習予定です。

特に中学生の時期の問題解決には、父親の家庭教育への参画が重要であり、家庭及び地域社会における父親の役割など学習を深めていきましょう。

反抗期の父へ

いつも急にふきげんになって、しゃべらなくなるお父さん。

いつも母と私は、「また、お父さん反抗期だね。」と言っているよ。きげんのいいときと悪いときの波が激しすぎて、正直母と私はまいてるよ。普通にしてほしいなと、いつも思っているよ。お金をくれるとか、物を買ってくれるとかじゃなくて、私はただ普通にしゃべりたいな。たわいもない会話をしたいよ。急にふきげんになったりしないでね。今度一緒にご飯でも作りませんか。

こころの言の葉 ~第17集 大切なあなたに伝えたい、私の思い~ (掲載)

◎ あじさい週間から ◎

今年度も5月31日から6月4日までの1週間、生徒や教師が授業を評価し、それを基に、教師は授業改善、生徒は授業への取組を振り返る「あじさい週間」を設定し取り組みました。

あじさいとは、個性を持つ生徒一人ひとりを一枚の花びらととらえ、その花びらが互いを理解し合い・認め合い・支え合うことで、つながり合い大きなあじさいの花のような集団となることを目指すために名付けられました。

生徒会の学習部は、伊敷台中の伝統である「協同学習」という取組や「友達の話は、最後までしっかりと聴く。」「『わからないこと』は、友達に尋ねる。」「友達にきかれたら、丁寧に説明する。」という3つの『学び合いのマナー』を特に意識する週間であることを5月28日に全校生徒に周知しました。

